

# 産学連携・知的財産本部から

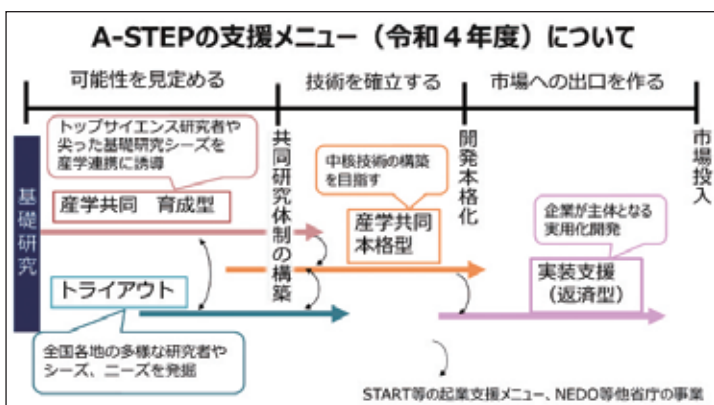
## JSTの研究成果展開事業について

知的財産アドバイザー 西ヶ野 政宏

本学の産学連携・知的財産本部に知的財産アドバイザーとして着任してから5ヶ月が経過いたしました。今回は科学技術振興機構（JST）の「研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）※1」について紹介させていただきます。（私は現在、このプログラムにおいて「トライアウト」を担当しております）

本学の多くの先生方は既にご存知のように、A-STEPは文部科学省の競争的研究費の一つでJSTがその配分機関を担当しております。そのプログラム体系は以下の図に示すように、基礎研究領域に近いものから実用化開発まで用意され、研究開発の目的・状況に合った支援メニューを選択して応募することができるようになっています。川下に向かうに連れて研究開発期間及び研究開発費も大きくなります。

この中で、「トライアウト」について少し詳しく説明します。



「トライアウト」は「産学共同（育成型）」とともに基礎研究成果を本格的な産学連携開発へステップアップさせることを目指す支援メニューです。育成型が、研究シーズの実用化方向性を明確化することに軸足を置いた、いわゆる「シーズプッシュ」アプローチであるのに対し、トライアウトは企業視点を活用して事業化が望まれる技術ターゲットを設定する、「ニーズプル」アプローチをとることが特徴です。

支援メニュー	令和4年度			
	トライアウト	産学共同（育成型）	産学共同（本格的型）	実装支援（返済型）
課題提案者	大学等の研究者	大学等の研究者	企業と大学等の研究者	ベンチャー企業等
対象分野	特定の分野を指定せずに幅広く募集。ただし医療分野は対象外。			
研究開発期間	最長2年度	最長3年度	最長6年度	最長3年間
研究開発費	上限300万円(総額)	上限1,500万円(年額) 初年度は上限750万円	上限1億円(年額) 初年度は上限5,000万円	上限1~5億円(総額)

A-STEPの対象分野として医療分野は（原則）対象外となっており、医学系の先生方はこの制限のために応募をあきらめている方も少なく

くないのではないのでしょうか。先生方の研究成果において、ヒト以外の動物に対しても有効と思われる診断方法・診断装置・治療装置等はありませんか？ご自身の研究成果（知的財産とも言えます）の利用形態を上位概念でとらえなおしてみると、案外、これに該当するものがあるかもしれません。それらの研究成果はJSTで支援できるものも少なくありません。そこでデータをとってみました。令和2年度にトライアウトで採択された559課題の「課題名」を確認したところ、約2割が医療工学系・医療情報系など、医療系テーマとも思われるものでした。外部からの研究資金獲得を検討される際、JSTの公募事業も是非検討されてみてはいかがでしょうか。

ご不明な点並びにご相談は西ヶ野までお気軽にご連絡ください。

※1：[https://www.jst.go.jp/a-step/a-step\\_pamph2022.pdf](https://www.jst.go.jp/a-step/a-step_pamph2022.pdf)